

参院選の争点に岸田政権の“コロナ失政”急浮上の目 都は「警戒レベル」を引き上げ

2022/7/1 日刊ゲンダイ



第6波では救急搬送困難事案が急増（写真はイメージ）／（C）日刊ゲンダイ

30日の東京の新型コロナウイルスの新規感染者数は前週木曜日より1208人増えて3621人。前週同曜日を上回るのは13日連続だ。都は警戒レベルを引き上げ、専門家は「再来週に5000人超になりかねない」と指摘。全国的にも増加傾向がみられ、にわかにコロナ対策が参院選の争点に浮上する可能性が出てきた。

岸田政権下の第6波（今年

1～4月）のコロナ陽性者の死者数は1万1100人を超え、過去最多だった。これは岸田政権による人災と言える。岸田政権は3回目のワクチン接種時期について、2回目から「8カ月後」との方針に固執。オミクロン株の蔓延を許した後に、ようやく高齢者接種を本格化させた。このため、ワクチン効果が切れていた高齢者が次々と命を落とした。

また、オミクロン株の感染者は、肺炎など重症化せずに亡くなるケースが少なくなかった。ところが、岸田首相は「重症者の病床数は余力がある」とピンボケ答弁を繰り返し、「重症に至らぬ死」に対し、何ら有効策を打たなかった。

「安倍、菅政権もひどかったですが、岸田首相のコロナ対応は最悪です。口では“先手先手”と言いながら、後手の極みでした。冬の前に、高齢者の3回目接種を終えられなかったのは、悔やまれる大失態です。過去最多の死者数も含め、岸田政権のコロナ失政は参院選でもっと問われていいはずですよ」（西武学園医学技術専門学校東京校校長の中原英臣氏=感染症学）

■熱中症とのダブルパンチ

猛暑の中、熱中症が急増しているタイミングで、コロナが拡大するのも心配だ。

総務省消防庁によると、6月に熱中症の疑いで救急搬送された人は26日までに全国で7474人に上り、過去最多となった。

第6波では1月から3月にかけて全国で救急搬送困難事案が急増。6000件を超える週もあり、救急隊が3時間半待機したり、医療機関に28回も断られる事態まで起きた。

「すでに猛暑により熱中症が多発している。さらにコロナが流行すれば、救急搬送が逼迫するのは目に見えています。第6波の反省を踏まえて、岸田首相は手を打つべきです」（中原英臣氏）

6月20～26日の全国の救急搬送困難事案は1993件で前年同期比52%も増えている。やはりコロナも争点だ。